

港湾における洋上風力発電の導入の円滑化について (報告)

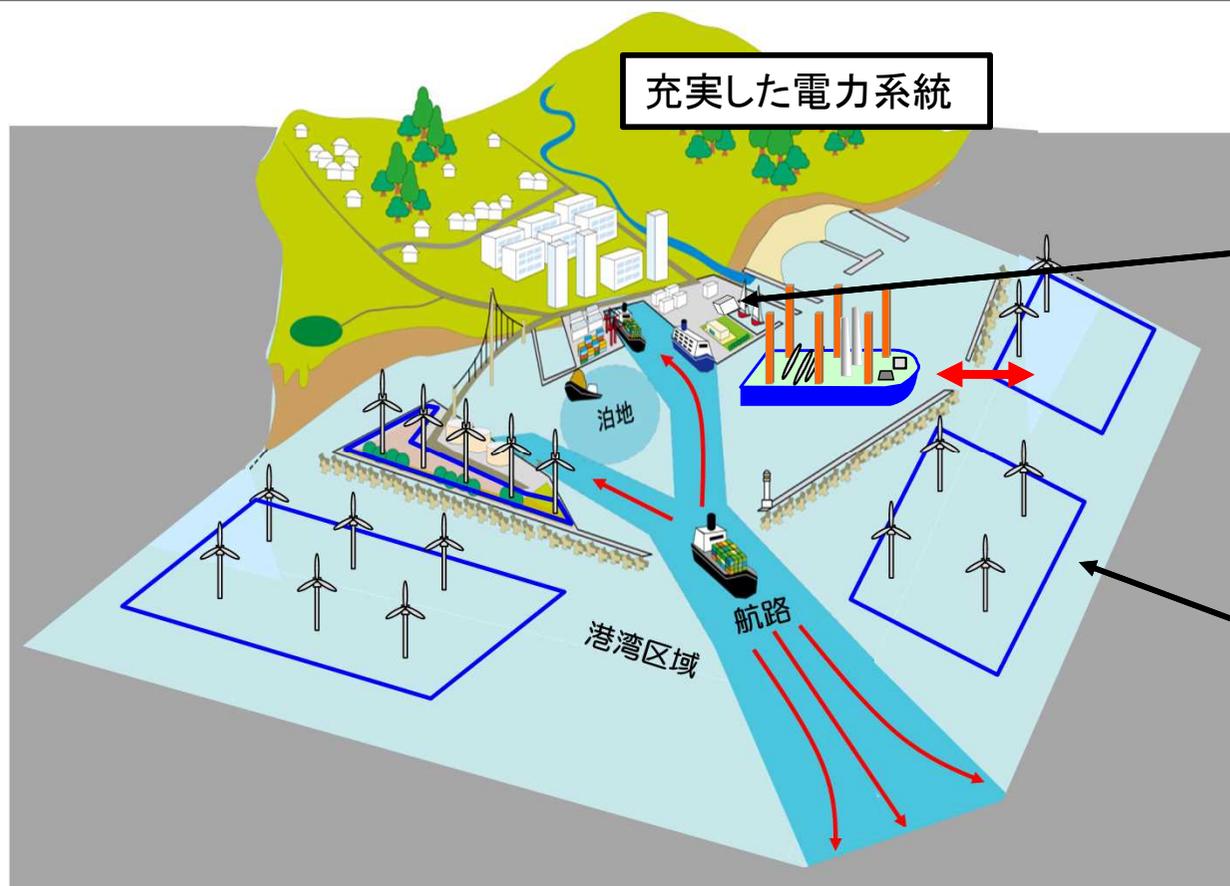
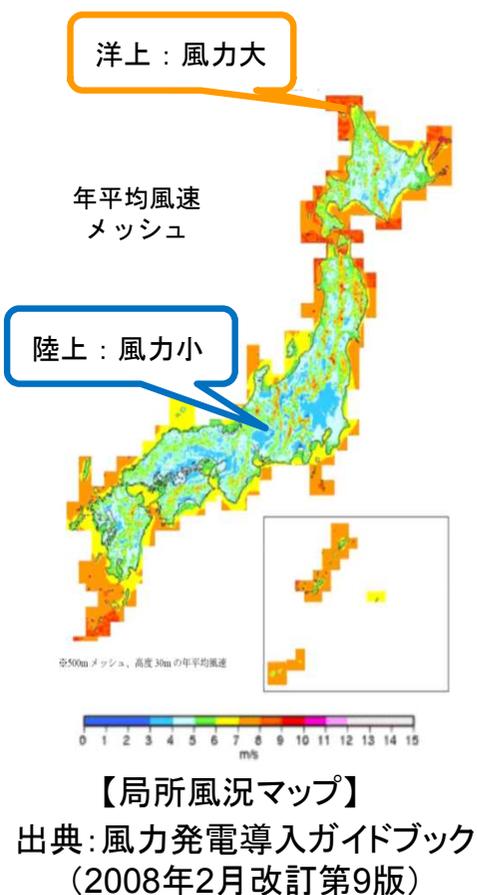
平成27年12月7日
国土交通省港湾局

- ①洋上風力発電は、陸上に比べて風況が良好なため設備利用率が高く、輸送制約が少ないため大規模な開発が可能、また、生活空間と隔離されることにより騒音等の影響が少ないといった利点がある。
- ②港湾は、電力系統が充実し、洋上風力発電施設の建設や維持管理に利用される港湾インフラが近接しているため、洋上風力発電の導入適地として有望視されている。
- ③また、洋上風力発電の導入にあたっては、海上輸送や漁業等、既存の海域利用との調和を図ることが必要となるため、海域の管理主体と管理制度の存在が不可欠である。港湾は、港湾法に基づく港湾管理者が存在し、関係者間の合意形成や占用許可に関する一定の手続き等が整備されていることなどから、海域の管理や利用調整の仕組みが最も整備されている空間といえる。
- ④洋上風力発電施設は、臨海部空間における、これまでの公共施設や民間施設の立地とは異なり、長期かつ大規模に水域を占用する固定的な大型施設である。
- ⑤そのため、洋上風力発電の導入が港湾の開発・利用・保全と調和が十分とれたものとなるよう、当該施設の特徴を踏まえた上で、現行制度の充実を図り、その積極的な活用により、円滑な導入の促進を進めていくこととする。

洋上風力発電の導入空間としての港湾の優位性

○洋上風力発電は、陸上に比べて風況が良好であり設備利用率が高い等の利点があり、港湾は、次の要因により、当該施設の導入適地として有望視されている。

- ①港湾は「海陸の境界という立地特性」を活用して、様々な産業が数多く立地している空間であり、高い電力需要が見込まれるため、電力系統が充実している。
- ②洋上風力発電施設の建設や維持管理に利用される港湾インフラが近接している。
- ③港湾法に基づく港湾管理者が存在し、関係者間の合意形成や占用許可に関する一定の手続き等が整備されていることなどから、海域の管理や利用調整の仕組みが最も整備されている空間といえる。



ブレーマーハーフェン港
(ドイツ)の例

海域の管理や利用調整の仕組みが最も整備されている空間

【洋上風力発電と港湾との関係のイメージ】

洋上風力発電の導入の円滑化を図るための課題と制度整備の方向性

- 洋上風力発電施設は、長期かつ大規模に水域を占有する固定的な大型施設である。
- そのため、洋上風力発電施設の特徴を踏まえたうえで、事業者の地位を安定的に確保するための措置とともに、港湾の機能を確保しつつ当該施設を設置するための基準等の整備が必要。

<現行制度上の課題>

①適正な事業者の選定

事業者の公正かつ妥当な選定手続きを明確化するとともに、事業者による洋上風力発電施設の維持管理等の確実な実施について、港湾管理者が確認する手続きを明確化し、安全を確保する必要がある。

②選定事業者の地位の明確化

洋上風力発電事業は、長期にわたる運転が想定されるとともに、環境アセス等による準備期間も含め長期間にわたる事業であるため、準備期間中における円滑な資金調達など確実な事業実施に資するため、一定の責務を果たすことを前提に、準備期間を含めた長期間にわたる選定事業者の地位の明確化が必要である。

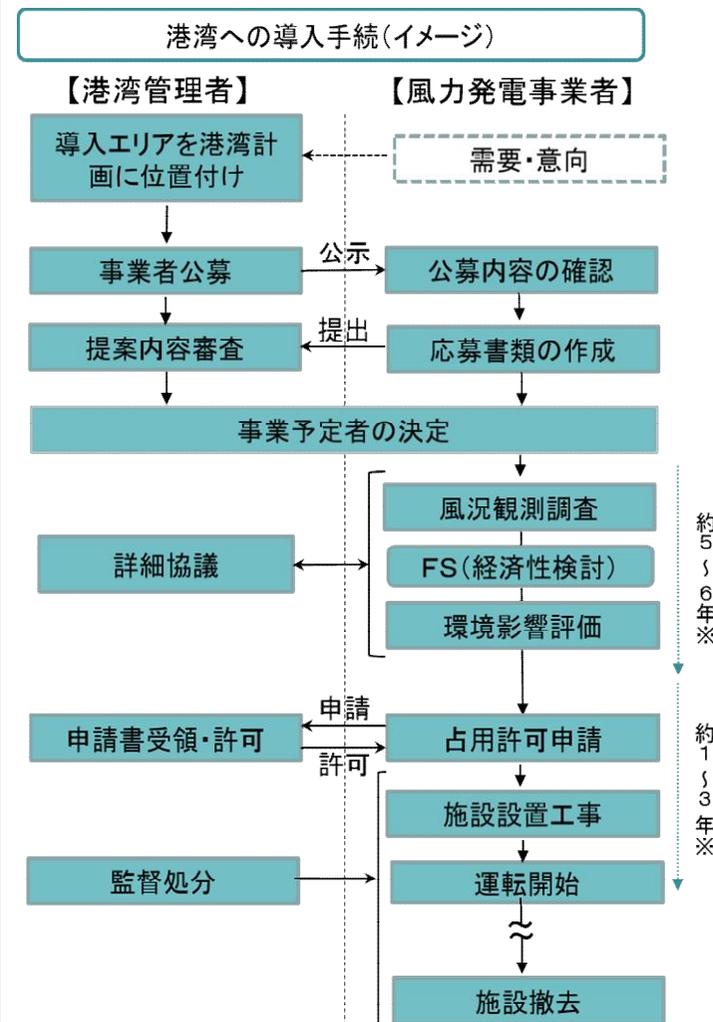
③占有に関する基準の明確化

港湾の利用等との調和を図るため、洋上風力発電施設と航路等との離隔を十分にとるなど、占有に関する基準の明確化が必要である。



<制度整備の方向性>

港湾区域等の占有に関する手続き及び基準を整備し、洋上風力発電の円滑な導入を促進。



※数字は、陸上風力発電施設の場合に平均的に要する期間を示したものである(出典:「再生可能エネルギー導入促進関連制度改革小委員会(第3回)」資料)。